



2019度 環境経営レポート

活動期間 2019年4月~2020年3月



有限会社 広島オート
(マツダオートザム出水)

2020年5月30日発行

1. 環境方針



有限会社 広島オート

環境方針

有限会社 広島オートは、出水平野にあり、周囲は田んぼに囲まれ、またツルの渡来地等、自然に囲まれた風光明媚な地域で20年来地域密着型の自動車販売及び整備業を営んでいます。

当社は、これらの事業において、自然との調和を図りながら、地球環境の保全と豊かな社会づくりに貢献します。

1. 事業活動に関わる環境関連の法規、条例及び関係する団体、関係者の要請事項を含む、その他の要求事項を順守します。

2. 環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。

- ① 限りある資源を大切にすため、省資源・省エネルギーに努めます。
- ② 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・リサイクルに努めます。
- ③ 水資源の削減に努めます。
- ④ 地球温暖化防止に向けて、省エネ型自動車の販売・エコ整備に努めます。
- ⑤ グリーン購入に努めます。
- ⑥ 地域の環境活動に貢献します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

3. この環境方針は、全従業員に周知徹底するとともに環境活動レポートで公表します。

制定日：2010年4月1日

有限会社 広島オート

代表取締役社長 広島 信治

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

有限会社 広島オート

代表取締役社長 広島 信治

2. 所在地

〒899-0126

鹿児島県出水市六月田町 932 番地

3. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 広島 信治（代表取締役社長）

EA21 推進事務局 広島 美加（業務）

TEL : 0996-67-1144 FAX 番号 : 0996-67-3148

E-mail : maz-izumi@mazda-autozam.jp

ホームページ : <http://www.maz-izumi.com/>

4. 事業内容

マツダブランド乗用車・商用車の新車販売

中古自動車販売

部品・用品等の販売

自動車整備業

損害保険代理業 等

5. 事業の規模

1) 従業員数 : 6 名 (2020年3月末現在)

2) 年間売上高 約 200 百万円 (2019年9月期) 事業年度 : 10月~翌年9月

・年間新車中古車販売台数 : 約 120 台 ・年間整備入庫台数 : 約 1,800 台

3) 店舗数 : 1 (本社、サービス工場)

4) 敷地面積 : 1,815 m² ・床延面積 : 412 m² (店舗 165 m²、サービス工場 247 m²)

2. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 有限会社 広島オート

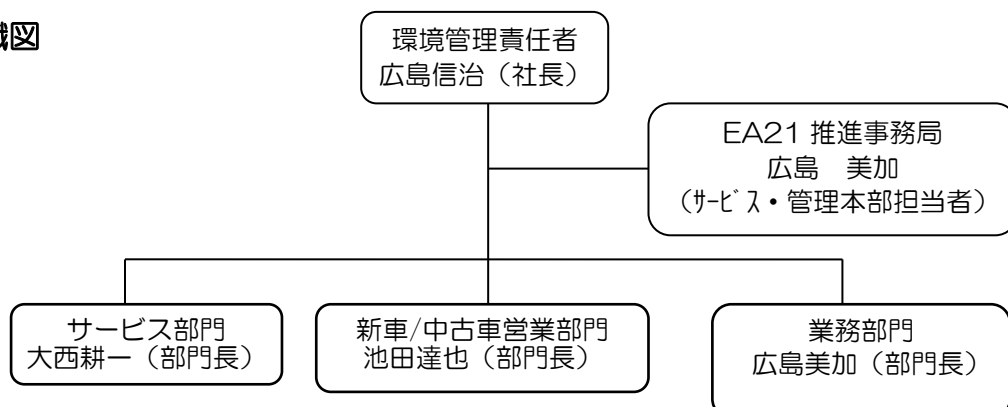
登録対象範囲 : 自動車の販売 (新車・中古車)

自動車の部品・付帯用品販売

自動車の修理及び整備

自動車損害保険代理店

3. 組織図



4. 目標

1. 環境負荷の現状

年度：当年4月～翌年3月

項目		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
電力	電力使用量	kWh	16,813	17,038	16,973	20,308
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	7,784	7,889	7,858	9,402
化石燃料	ガソリン使用量	L	6,739	6,744	7,872	7,435
	軽油使用量	L	1,284	1,892	2,270	1,569
	化石燃料計	L	8,023	8,636	10,142	9,004
	二酸化炭素排出量計	kg - CO ₂	18,974	20,560	24,157	21,328
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	26,758	28,448	32,015	30,730
産業廃棄物排出量		kg	9,860	10,273	10,168	10,181
水使用量		m ³	312	275	249	245

※電力使用量の二酸化炭素係数：九電H29値 0.463 kg-CO₂でさかのぼって算定

2. 中期環境目標

年度：当年4月～翌年3月

項目	単位	2017年度 実績 (基準年度)	指標	目標			
				2018年度	2019年度	2020年度	
電力	電力使用量	kWh	17,038	毎年 Δ0.5%	16,953	16,868	16,782
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	7,889		7,849	7,810	7,770
化石燃料	車燃料	L	8,636	毎年 Δ0.5%	8,593	8,550	8,506
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	20,560		20,475	20,354	20,252
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	28,448	毎年 Δ0.5%	28,306	28,164	28,021
産業廃棄物排出量		kg	10,273	毎年 Δ0.5%	10,222	10,170	10,119
水使用量		m ³	275	毎年 Δ0.5%	274	272	271
コミュニケーション向上施策等の実施		年間	—	施策実施	実施	継続	継続
地域清掃		件	12	12 維持	12	12	12

※電力使用量の二酸化炭素係数：九電H29値 0.463 kg-CO₂でさかのぼって算定

5. 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力使用量の削減

- ① 不要な照明の消灯・節電の徹底
 - ・ 毎月使用量を把握し節電意識の啓発を図る
 - ・ PC 定時自動シャットダウンと定時退社日の順守
 - ・ 夜間不要な広告看板・事務所・工場照明の消灯
 - ・ 昼休み・休憩時、事務所・工場等の消灯
 - ・ 未使用時トイレ・会議室・給湯室・更衣室・部品庫等の消灯
 - ・ LED テスト導入（ショールーム照明）
- ② 冷暖房設定温度を管理する
 - ・ 事務所は冷房 28℃、暖房 20℃の温度設定を徹底
 - ・ お客様スペースは体感適温管理
- ③ エアコンフィルターの清掃
 - ・ 清掃日を定めて清掃を実施する
- ④ 待機電源オフを徹底
 - ・ 退社時に確認、定休日前日に確認

2) 燃料使用量の削減

- ① 研修などの出張時はできる限り、公共交通機関を利用する
 - ・ エコドライブの実践
 - ・ 「エコドライブ10のすすめ」を実践し、習慣化
 - ・ 社用車にエコカー導入の検討
- ② 燃費向上策の実施
 - ・ 社用車の空気圧と不要な荷物のチェック管理
 - ・ エコオイル交換、エアエレメントの定期清掃を実施
 - ・ 法定点検の実施

2. 廃棄物排出量の削減

- ① 紙使用量の削減
- ② 両面・縮小コピー活用
- ③ 裏紙用紙のストックボックスの活用
- ④ 用紙裏面使用の徹底
- ⑤ コピー機使用後リセットの徹底
- ⑥ 会議資料の電子データ化推進
- ⑦ 分別を徹底し一般ゴミの削減を推進
- ⑧ 分類別に保管場所を設定し、リサイクルの徹底
- ⑨ 産業廃棄物の適正処理を徹底
- ⑩ 産業廃棄物収集運搬業者の見直し

3. 水使用量の削減

- ① 水使用量の把握と漏水の確認
 - ・ 毎月水道使用量の確認記録と漏水有無をチェックし、意識の啓発
- ② 水の適正使用の徹底
 - ・ 水を流したままにしない

4. 低燃費車販売
 - ① 低公害の車の販売
 - ② 顧客へのエコドライブのすすめ
 - ③ 車検・整備時のエコ整備推進
5. コミュニケーション向上施策等による生産性改善の取り組み
 - ① コミュニケーション向上施策
 - ・社内外での挨拶の励行、重視
 - ② 6S（整理、整頓、清掃、清潔、躰、センス）の徹底
 - ・朝礼や社内会議での周知徹底
6. 地域貢献
 - ① 会社周辺の道路清掃

6. 2019年度環境目標の実績（2019年4月～2020年3月）

項目	単位	2017年度 実績 (基準年度)	指標	目標	実績	
				2019年度 2019/4～2020/3		
電力	電力使用量	kWh	17,038	基準年度比 △0.5%	16,868	20,308
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	7,889		7,810	9,402 +19.2% (未達成)
化石燃料	車燃料	L	8,636	基準年度比 △0.5%	8,550	9,004
	二酸化炭素排出量	kg - CO ₂	20,560		20,354	21,328 +3.7% (未達成)
二酸化炭素排出量合計		kg - CO ₂	28,448	基準年度比 △0.5%	28,164	30,730 +8.9% (未達成)
産業廃棄物排出量		kg	10,273	基準年度比 △0.5%	10,170	10,181 △0.9% (達成)
水使用量		m ³	275	基準年度比 △0.5%	272	245 △10.9% (達成)
低燃費車販売		台	81	基準年度 +4台	85	67 14台不足 (未達)
地域清掃		件	12	12 維持	12	12 (達成)

※電力使用量の二酸化炭素係数：九電H29値 0.463 kg-CO₂でさかのぼって算定

7. 2019年度取り組み結果の評価と2020年度の取り組み

1) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量（電力と化石燃料の使用によるCO₂排出量合計）については、基準年（2017年度）比で8.9%の上昇でした。原因としては、夏場の猛暑の影響、年度末の新型コロナウイルス感染症防止のための換気を頻繁に実施したことにより、エアコン（冷房・暖房）の電気使用量が上昇したことが考えられます。最近の猛暑の影響では、健康管理（熱中症対策）のために、快適な職場環境及び接客環境を整備することを心掛けたための上昇であるため、現在のところ問題はないと判断しています。

これまでの環境経営活動によって、社内における削減やコスト意識は浸透してきており、引き続

き、電気や燃料の使用における「無駄の削減、撲滅」に取り組んでいます。2020 年度についても引き続き、電気や燃料の最適使用に向けて取り組んでいく予定です。

2) 電力使用量の削減

電力使用量については、基準年比19.2%の上昇でした。目標数値としては、削減目標を達成することができませんでしたが、前述のとおり、猛暑の影響による健康管理（熱中症対策）のための上昇、さらに年度末の新型コロナウイルス感染防止のための換気を頻繁に実施したことによる上昇であり、特に問題はないと判断しています。

休憩時間等、電力を使用しない時間帯の事務所や工場の消灯、自動販売機の夜間消灯、冷暖房の温度管理、エアコンフィルターの清掃、また、残業削減や定時退社日の励行等、継続的に電力使用量削減に向けては、引き続き取り組みました。2020 年度以降も、引き続き節電に取り組んでまいります。



図-1 エアコンの温度設定（夏期28度、冬期20度）

3) 燃料の削減

ガソリンや軽油等の燃料については、基準年比3.7%の上昇（目標未達成）となりました。2018年度ほどではありませんでしたが、基準年度比好調であり、試乗車の使用が増えたことが要因としてあげられます。

なお、社用車の燃費改善のために、タイヤの空気圧の点検、エアエレメントの定期清掃とともに、引き続きエコ運転や相乗りの徹底を推進してまいりました。さらに、お客様に対しても、代車、新車試乗時でのエコドライブをお願いしてまいりました。また、社用車を利用する必要がない場合は、できるかぎり公共交通機関の利用を推進しました。2020 年度以降も、引き続き環境負荷軽減に向けて取り組んでまいります。



図-2 タイヤ空気圧の点検実施

4) 廃棄物排出量削減

循環型社会の実現のために、廃棄物排出量の削減に向けた取り組みを継続しています。例えば、紙使用量の削減のため、用紙の両面・縮小コピーを励行しています。また、お客様の個人情報を含まない不要な用紙に限っては裏紙として再利用したり、会議資料の電子データ化を推進したり、廃棄物の発生を抑制できるよう取り組んでおります。さらに、その他の事業系一般廃棄物や、産業廃棄物についても、分類別に保管場所を設定し、できるだけリサイクルを推進しています。産業廃棄物については、基準年度比0.9%の削減を達成することができました。

当社では、車の整備の際に発生する廃油、汚泥、廃プラスチック（廃タイヤ）、廃バッテリーなどを産業廃棄物として、法令に則って適正に処分しています。これらの分別等を徹底し、リサイクル化や再利用有価処分等へ取り組んでいます。2020年度以降につきましても、引き続き確実に環境法令を遵守しつつ、分別やリサイクルの徹底を図ってまいります。



図-3 裏紙として再利用（コピー機）



図-4 産業廃棄物の分別、保管、管理

5) 水使用量削減

水使用量につきましては、基準年比の10.9%を削減できました。当社での使用量の把握や漏水確認等節水意識は高く、水を出したままにしない、漏水のチェックを行う等、様々な取り組みを続けております。2020年度以降につきましても、引き続き水資源の適正利用に取り組んでまいります。

6) 低燃費車の販売

マツダグループでは、クリーンディーゼル車など、低燃費車や低公害車の販売を推進しています。2019年度は、残念ながら販売目標を達成することができませんでしたが、引き続き、低燃費車や低公害車の販売活動を通じて、お客様の経費削減はもちろん、二酸化炭素排出削減等、環境負荷軽減に向けて貢献してまいります。



図-5 クリーンディーゼル車の販売促進

7) コミュニケーション向上施策等による生産性改善の取り組み

現在、当社では6名の従業員で協力し合い、お客様に対する商品販売、サービス等を実施してまいりました。この度、当社では、さらなる生産性改善の取り組んでいくことで、お客様に対して、迅速、丁寧、正確なサービスを提供できるよう、サービス品質の向上につなげていきたいと考えております。

2019年度では、エコアクション21の2017年版ガイドラインの趣旨を踏まえて、当社経営

活動と一体化した活動目標を設定するべく、生産性改善への取り組みを掲げました。生産性を改善することで、サービス品質の向上による売上・利益拡大だけでなく、作業ミス・手戻り作業の削減や、安全衛生面での事故リスクの削減など、環境面での効果も期待できます。

生産性改善に向けた取り組みとしては、従来から、6S（整理、整頓、清掃、清潔、躰、センス）に取り組んでいます。以上の取り組みは、1年間継続した実績をエコアクション21の内部監査やマネジメントレビューにおいて振り返り、今後のさらなる活動につなげていきたいと考えています。2020年度以降も引き続き取り組んでまいります。

【具体的施策】

- ① コミュニケーション向上について
 - ・社内外での挨拶の励行、重視
- ② 6S（整理、整頓、清掃、清潔、躰、センス）の徹底
 - ・6S啓発のポスター掲示
 - ・朝礼や社内会議での周知徹底
 - ・エコアクション21の内部監査等での実践状況の評価

8) 地域清掃

当社では、会社周辺の道路の清掃や空き缶ひろいを実施しています。2019年度は、月1回の清掃活動を実施し、目標である年間12回を達成することができました。今後は、ボランティア活動として活動区域を広げていきたいと考えております。



図-6 店舗周辺の道路清掃

9) その他の取り組み

当社では、以上の環境管理活動について、2017 年度から、自社ホームページで公開しています。当社従業員やお客様だけでなく、周辺地域を含むすべての皆さまに、当社の環境管理活動に対するご理解をいただくとともに、さらなる環境貢献に向けて取り組んでまいります。



図-7 ホームページ (<http://www.maz-izumi.com>) での環境管理活動の公開

8. 環境関連法規の順守状況

1. 環境関連法規のチェック

2019 年 12 月に法令遵守状況を確認した結果、遵守されていることを確認しております。

法令名称	要求事項	適用施設	評価
廃棄物処理法	施設の届出	廃棄物置場	○
消防法	消防用設備の設置	消火器・危険物貯蔵量	○
自動車リサイクル法	リサイクル券の購入	自動車	○
騒音規制法	届出・基準の順守	コンプレッサー	○
振動規制法	届出・基準の順守	コンプレッサー	○

2. 違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反は無く、過去 10 年間、行政からの指摘や地域住民からの苦情及び訴訟はございません。

9. 代表者による見直しの結果

2020年5月に2019年度のレビューを実施いたしました。エコアクション21に取り組みはじめ、早や10年が経過しましたが、継続的な環境管理活動のおかげで、環境負荷については大幅な削減効果につながっております。引き続き、マネジメントシステムの強化を図りつつ、環境負荷軽減及び環境貢献につなげてまいりたいと考えております。

1. 環境負荷の削減では、目標未達成の項目がいくつかありましたが、地道な取り組みが成果につながっていると考えられます。環境管理活動を徹底させたことで、様々な無駄が多く発見でき、電気使用量や廃棄物排出量の適正化に繋がっています。

燃料については、削減目標は未達成でしたが、前年度比で確実に削減できており、代車等含めた社用車のガソリン及び軽油の使用量を抑えるよう取り組んでいます。お客様に対しても、エコドライブをお勧めしながら、こまめな削減活動に取り組みました。また、移動手段として公共交通機関の利用を増やしたことも大きいと考えております。また、水削減、地域清掃活動などは定期的に進捗確認した結果、目標を達成することができました。2020年度以降についても、引き続き目標達成を目指してまいります。

2. 従業員の新規採用及び退職がある中で、EA21 マネジメントシステムの運用定着に取り組んでいます。2020年度以降も引き続き、マネジメントシステムを見直し、組織の在り方、運営の進め方を再検討してまいります。

3. 環境関係の社内掲示は、従業員の周知という意味で大変役立っています。従業員にも理解しやすい掲示に改善してまいります。また、掲示物を定期的に変更するなど、社員の目につきやすい工夫も実践してまいります。

4. 今後の環境教育は、会議等での環境教育を継続しながら、その他にも、販売店及び整備工場周辺の道路清掃などのボランティア活動を充実してまいります。道路清掃に関しては、2015年度までは実施しておりませんでした。2016年度～2019年度は、月1回は必ず実施しており、環境に対する従業員の意識を高めていくとともに、環境に対する教育活動も継続してまいります。

5. 2020年度の年間目標必達に向けて全社員で取り組みを進めます。なお、環境方針や環境目標を継続しつつ、EA21 マネジメントシステムの社内定着化を推進してまいります。

6. 今後も引き続き、更なる社員の環境意識の向上と環境目標に対する取り組みを推進し、環境に優しい企業を目指すとともに、企業価値向上を図ってまいります。

以上